復興かわらばん 第２号

～それぞれの地域の特色・資源を連携する復興まちづくり～

官民協働の復興まちづくり計画等検討ワークショップ（第２回）開催！

平成 24 年 7 月 21 日 (土)、UR都市機構 岩手復興支援局 釜石支援事務所で、「官民協働の復興まちづくり計画等検討ワークショップ」第 2 回が開催され、周辺集落の住民約 20名が集まり、前回に引き続き復興に向けたアイディアを語り合いました。
「復興かわらばん」第２号では、このワークショップの様子をお伝えし、皆様からどのような意見が出されたかをお知らせします。

発行日：平成 24 年 8 月 8 日　発　行：（財）都市農地活用支援センター
作　成：ＮＰＯ風・波デザイン 芝浦工業大学学生有志

１４：００スタート

今回も来場者の方にアンケート様式 1.2.3 を行いました。

1 ■来賓挨拶

復興庁岩手復興局長
井上　明　氏

被災者の方、市町村の方、NPO の方などのご協力もあり、復興は進んできています。
また、このワークショップでは、さらに復興・復旧の先、地域のまちづくりを再生するという狙いがあると感じとりました。
皆様には様々な提案をして頂き、行政にぶつけ、岩手の素晴らしい発展を支えて頂きたいです。

2 ■来賓挨拶

UR都市機構岩手復興支援局
佐々木　功　氏

今回のワークショップのテーマでもあります、官民自然産業を活かした復興まちづくり
これがまちづくりを進めていく上では重要であるとUR も考えております。そのための活動拠点を作っていくことは大事な事でもあります。
皆様の活発な検討や協議をされまして、復興の中身や、進め方、それについて実りある成果が出ることを非常に期待しております。みなさまの活発な検討や協議により、実りある成果がでることを非常に期待しております。

3 ■理事挨拶

（財）都市農地活用支援センター　理事
統括研究員　佐藤　啓二　理事

第一回目はそれぞれ歴史文化のことなった地域の皆さんが話し合う場ができたということが一番の成果と思っております。
第二回目は、「連携」というのがひとつのキーワードのような気が致します。
今までの取り組みをさらにパワーアップするために連携し、大きな取り組みにするにはどうしたらよいかということを今日お話ししていただき、次回の実際の取り組みとしてどうしたらいいのかという第三回に繋げて頂けたらよろしいのではないかと思っております。

4 ■まちづくり提案

芝浦工業大学システム理工学部
松下　潤　教授

東京で約１ヶ月前に行われた防災セミナーにて、釜石市長さんがおしゃっていたことは、「循環型社会」、「フィールドミュージアム構想」、「産業福祉都市」この３点です。
そこで私どもがお手伝いできることは産官学の連携のネットワークを作ることです。
組織を作る事、共同で作る場所の確保となると予算の確保が必要になってきます。
もしそういったことが必要であると皆さんが考えるのであれば、このワークショップは非常に重要であります。これからお話して頂き、次回のワークショップでは具体的に前に進める為の提案を全員でまとめられればと考えております。

※休憩時間中に、松下教授が持ち込んだ地産地消の実践例である「カリン酒」が女性３名に贈与されました！

5 ■ワークショップ説明

（財）都市農地活用支援センター 次長
橋本　千代司

今回のワークショップでは、前回のワークショップで出た物を参考にしながら、
パート１：事例カードを素材に、各地域で何が出来るか。
パート２：PART1 で出たアイディアを実現し、連携して取り組むには何が必要だろうか。
というテーマで進めて参ります。

※ワークショップの結果は！？次の頁にまとめました。

２つのグループに分かれて話し合いました！

ワークショップで出てきた住民の皆さんのご意見　まとめ

ワークショップ　PART1

事例カードを参考に、※事例カードは参考資料参照 アイディアを出し合おう！

A グループ
（女性３名、男性 ４ 名）
海側にお住まいだった方が
多く入っているグループ

観光・交流

・自然学校
→観光・人材育成
＋グリーンツーリズムの活性化
→定住・集客
・体験学習
→グリーンツーリズムの復活
（中高生）
⑥合宿（宿泊施設・スポーツ選手村）
・交流人口を増やす

インフラ

・海の中の森（藻場の再生）
→砂浜の再生、
・海水浴場の再生
・トライアスロン開催の
ための競技場の整備

人

①②暖かさのあふれる風景・風土づくり
→挨拶推進
・防災教育と「生きる」を勉強する
③④高齢者と障害者と自然と共生できる持続可能の社会
・宮沢賢治の「人のために生きる」
・ひとりひとりが表現者
・市民力をつける

歴史・伝承

⑥郷土料理の伝承
例）おにしめ

食

⑤地産地消型のまちづくり
・特産品作り
１～３月：まつも、布海苔、ひじき
３月：わかめ
５～６月：昆布
７～８月：ほや
１１月～冬：ほたて
・漁業とのタイアップ
→定置網で採れた海産物
・集客に向けた道の駅つくり
・わらび堤防に
→収穫→わらびもち

産業

⑤水産加工場を新設
・環境と里海・里山の資源を戻す運動
→産業となり、世界の人々の来る
三陸を目指す

雇用

⑤水産加工場を新設
・環境と里海・里山の資源を戻す運動
→産業となり、世界の人々の来る三陸を目指す

B グループ
（女性 １ 名、男性 ６ 名）
山側にお住まいだった方が
多く入っているグループ

観光・交流

・グリーンツーリズム
・民泊体験（教育）
・体験農場
・どんぐり広場産直
・農家レストランが欲しい
・市民運動会を海と交互に行った
・日帰り観光コース
⑦家庭菜園
⑦農村都市にしたい

インフラ

・鵜住居・栗橋地区で道をつくった
（期成同盟）
・集落排水（川を綺麗に）
→ツーリズムにも有利

人

・清掃活動
・自治会
・自給自足
・少子高齢化
⑦健康なまちにしたい

産業

・耕作放置の田んぼを活用
・（オーナー制に。他の地域の人にも）
・兼業（この形を崩さずに継続させることが課題）

歴史・伝承

・地元学県内一号
・地域・文化・知の伝承
・栗橋小学校で PTA が地域文化を学んでいる

食

・果樹特産あり

※各項目の先頭の番号は、事例カードの番号です。

２つのグループに分かれて話し合いました！

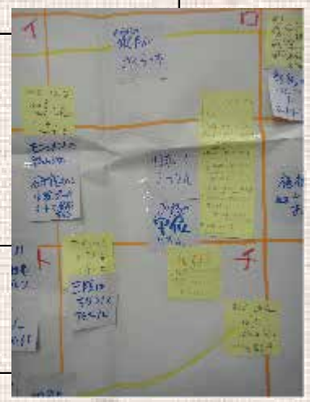
ワークショップで出てきた住民の皆さんのご意見　まとめ

ワークショップ　PART2

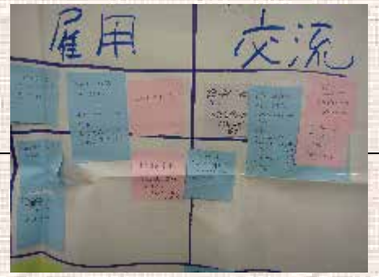
PART1で出たアイディアを実現し、連携して取り組むには何が必要だろう！

A グループ
（女性３名、男性 4 名）
海側にお住まいだった方が多く入っているグループ

	住むこと（居住）	生業や雇用（生活と産業）	観光や交流
組織をどうするのか	・専門家の指導を地域で受けられる ・どんな災害にも対応できる避難場所、水道、電気、暖房、トイレ、食料など完備された建物が絶対必要 ・旧住宅用地の自治会の組織を改め他と連携することができる組織	・地域の活動グループの組織化 ・協議会を作る ・組織を作ってネットワーク化 ・女性部の再組織化。漁協との連携を増し、元気な漁村作りに寄与する（瓦版を作りたい）	・わらびの漬け方教室 ・ネットで情報配信 ・産学官の連携
		・津波ミュージアム（世界一の施設。研究機関や、実験プールなどを併設） ・堤防に桜の木、わらびを植える	
連携活動の計画をどうするのか	・トイレ、自家発電、食料 ・箱崎半島の頂上から、各地域に花を避難路を作り、花を植え、花ロードとしたい	・釜石ミラクルの伝承 ・高校、大学の単位として復興支援を組み込む ・宿、民泊、産直、レストランの連携	・外部村民をつくる （果樹公園に植樹してくださった方を、外部村民とする。） ・地域ごとに地産地消マップを作る ・箱崎半島の頂上から、各地域に花を避難路を作り、花を植え、花ロードとしたい
モデル事業を立ち上げられないか	・災害公営住宅に単独のコミュニティを設置 ・モデル団地づくり	・わかめの生産、ブランド化、漁協 ・稚魚や海藻が育つこと ・特色ある農産物、海産物のブランド化	・被災地ツアーから復興ツアー ・音楽、芸術、文化村を作る （定期的に音楽交流の演奏会をする） ・映画（アニメでも可）をつくる ・防災エリア教育 ・復興勉強のためのエリア ・トライアスロンの開催
その他	・災害公営住宅は低層の方が望ましい ・元気な高齢化社会を作りたい ・若者の力を引き出したい ・若いリーダーの育成	・三陸は違うぞ、とアピール	・根浜に砂を入れ、藻を生やす ・風景作り



B グループ
（女性 1 名、男性 6 名）
山側にお住まいだった方が多く入っているグループ

	住むこと（居住）	生業や雇用（生活と産業）	観光や交流
組織をどうするのか		・後継者がでるような魅力のある農漁業を立ち上げる ・農業は地域全体で環境も含めて皆で衛体制を作る ・地元学の伝承が必要 ・伝統芸能等を伝承する	・交流の依頼が栗橋に多く来ているので、受け入れたい ・橋野地区で小中学生と交流できるふれあいセンターを作りたい
連携活動の計画をどうするのか		・企業誘致、ベンチャー企業育成を行政にお願いしたい。 ・農家同士が手を繋ぎ取り組む ・期間の借地にして農家を貸し出す ・市民農園を整備し、自由農地を作る！ 都会の人に体験してもらう	・ｳｫｰｷﾝｸﾞｺｰｽをアピールできる看板・アクセスのしやすさを充実させたい ・国道45号線から岩手県道35号釜石遠野線への看板がほしい（35号線にはアピールできる材料があるから）
モデル事業を立ち上げられないか	福祉ビジネス	・山華水をもっと広めたい ・農業は米に焦点を当てて取り組みたい	・東京等の都市と、鵜住居川流域が手を組んでほしい ・ウィンドファームまでのアクセスを向上してほしい ・グリーンツーリズムを末広がりに育てたい
その他		・震災の傷がまだ癒えていない⇒無理強いができないのが現状 ・震災は心の復興がまだできていないのであせらずが大事 ・企業城下町だったが、震災と重なったため、今後どうするかが大切	・グリーンツーリズムを進める上で、鵜住居と栗橋は10年前より手を組んでいた

6 ■発表

各班に５分づつ発表してもらいました。

A グループの発表

パート１
・農水産物の加工で何か具体化したい、
　加工を通じ特産品を作りたい。
・学習を通し自然学校のように皆で農づくりを行いたい
　→PR、観光になるのではないか。
パート２
・コミュニティーを再編するため、モデル団地を作る。
・民泊・観光として砂を根浜に持って来て、稚魚や海藻を育て、
　居住に関する繋がりを持つ。
・漬け方の教室、何か物を学びながら、人に教えて伝えていく。
・事例カードの例に触発され、お花のロードを作ることは、
　面白いのではないかというも意見出ました。

B グループの発表

パート１
・４５号線から遠野に抜ける道筋を日帰りツアーコースに。
　→民泊施設との連携
・地域性を活かして、農業・グリーンツーリズムに力を入れていく
（どんぐり産地直売所を中心にして）
・地域の特徴を活かしながら人を呼びたい。
・釜石市は地元学が県内第一号であったので、復興に結びつけやすいのではないか。
パート２
・地元学を経験した世代から新しい世代へと継承していくことが柱。
・ウォーキングコースや、地域の景観を活かしたコースを転換しつつ、生業や雇用を形成していく。
・PTA の方たちが行っている、物や伝統芸能を継承していく取り組みを活性化させるべき。
・高齢の方が、私達の子供の頃はこうであったと伝え、一緒に考えながら地域を育てていく。

7 ■総括　松下　潤　教授より

A 班 B 班の発表を伺いまして、私はできそうだなという印象を受けました。
埋もれている物、あるいはこれからできそうな物を繋ぐということが必要になってきますので、
県道や旧道、４５号線が交差するあたりが両者の里山側・里海側の交流の拠点になるのではないか
というイメージがわきました。そこで両者が合同でなにかしかけるべき機能・役割・場の条件を
次回までに整理し、みなさまにご提示申し上げたいと考えています。
加えて、皆様方から頂いた物をベースに地産地消のポテンシャルを整理してまいります。
二つ目は、海と山を繋ぐ拠点に置くべき機能を提案致します。
そこで、みなさま方のご意見をお聞かせ願いたいです。
また、私達の提案にない、学習機能の提案はとても良いなと感じました。

終わりに、前回同様、松下教授から参加者の皆さんにサプライズ！
尺八で「さくら」、「ふるさと」を演奏して頂きました！
参加者の皆様と「ふるさと」を合唱し、和やかにワークショップは終了致しました！

１７：３０　終了

おつかれさまでした！

次回のお知らせ

復興まちづくりのシナリオを考えてみよう。

次回は、最後のワークショップになります。
地域の個性を活かしたまちづくりのシナリオを皆さんと考えてゆきたいと
考えております。
ぜひ、次回のワークショップへの参加もお待ちしております。
（平成 24 年 9月下旬頃の開催を予定しております。）

鵜住居、栗橋地域ほかご参加のみなさまどうもありがとうございます。

復興かわらばん　第２号　　平成 24 年８月８日　発行
復興かわらばん作成：NPO風・波デザイン　芝浦工業大学有志

会場の様子
　非常に和やかな雰囲気で，
　　活発に意見が飛び交っていました！
　　おつかれさまでした！

主催者・協力団体

復興庁岩手復興局復興局長	井上　明
復興庁岩手復興局復興推進官	亀村幸泰
ＵＲ都市再生機構岩手震災復興支援局	佐々木　功
ＵＲ都市再生機構岩手震災復興支援局釜石支援事務所　所長	大山　猛
ＵＲ都市再生機構岩手震災復興支援局釜石支援事務所　主幹	鈴木　孝弘
芝浦工業大学システム理工学部教授	松下　潤
NPO 法人　風・波デザイン　代表運営委員	丸山佑介
NPO 法人　風・波デザイン　運営委員	小笠原悦子
NPO 法人　風・波デザイン 、新潟大学　客員准教授	宮崎道名
釜石市職員	菊池　公男
	佐々木　利光
	伊藤　浩二
東北芸術工科大学	菊池優実江
芝浦工業大学	有馬沙名瑛
	大高佑介
	垣田良子
（財）都市農地活用支援センター理事　統括研究員	佐藤啓二
（財）都市農地活用支援センター次長	橋本千代司

参考資料：参加者の皆さんからのアンケートの分析

アンケート様式１　「釜石市栗橋・鵜住居地域」地産地消アンケート

問２　今回の取り組みワークショップでは、１回目は復興街づくりに向けた地域の課題と皆さんの思いた意識を集約しました。今回は２回目に当たり課題解決に向けたアイデア事例カードを参考にしながら、具体的に地域の特色や資源を活かすアイデア等を出し合って頂きました。そのため、皆さんの身近にある資源（特産品等）や、地産地消の活動等のアンケートをお願いするものです。

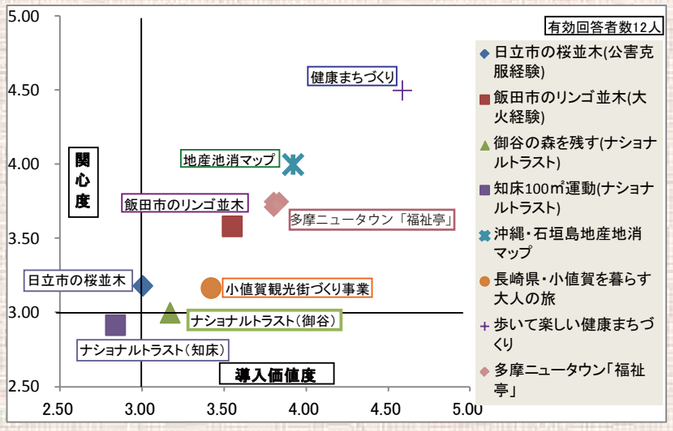


図１　事例カードへの関心度・導入価値度について

問３　地産地消の調査について、取り組み事例、特産品についてお聞きします。

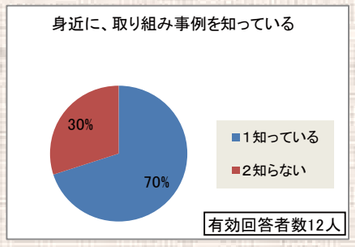


図２　身近な取り組み事例について

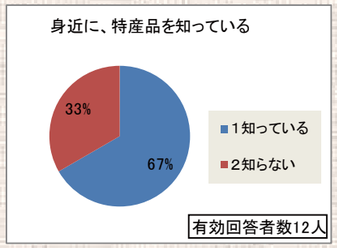


図３　身近な特産品について

問４　問３にて「知っている」と回答頂いた方にお聞きします。

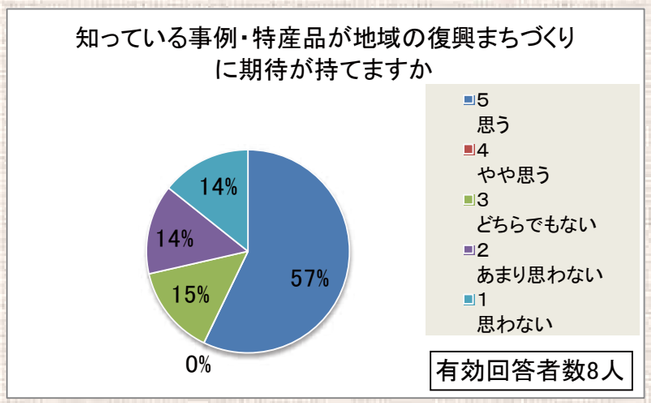


図４　身近な事例・特産品について

アンケート様式２　ソーシャル・キャピタルに関するアンケート

ソーシャル・キャピタル（Social capital）は、人々が持つ信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）のことを指し、上下関係のある垂直的人間関係でなく、平等主義的な、水平的人間関係を意味します。

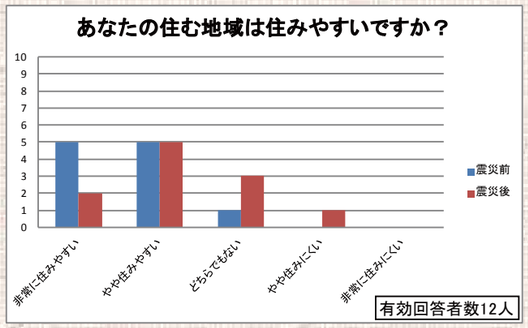


図５　住む地域について

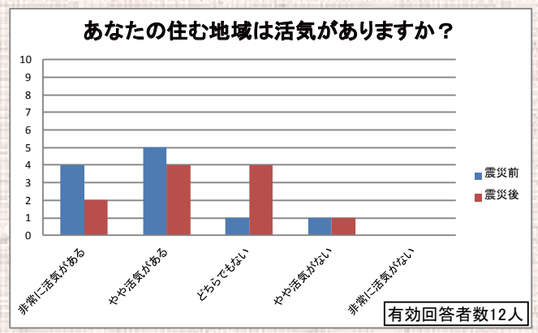


図６　地域の活気について

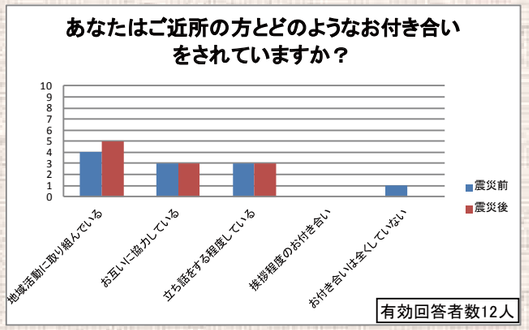


図７　ご近所間のお付き合いについて

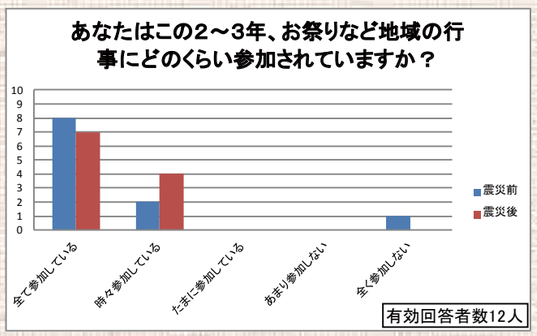


図８　地域行事について

アンケート様式３

目　的：今回のワークショップ原則に沿って進められているのか検証するため

凡例
- 5　思う
- 4　やや思う
- 3　どちらでもない
- 2　あまり思わない
- 1　思わない

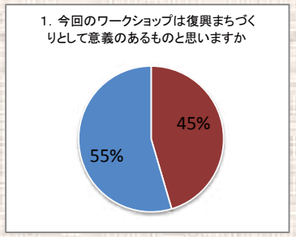


図９　今回のワークショップの意義について

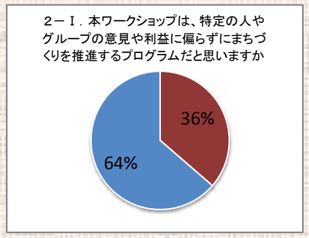


図 10　今回のプログラムについてⅠ

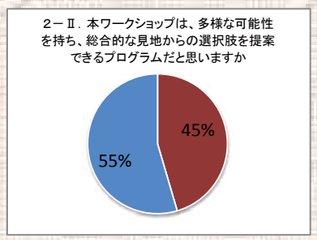


図 11　今回のプログラムについてⅡ

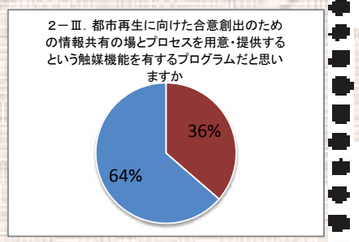


図 12　今回のプログラムについてⅢ

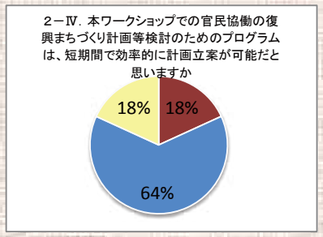


図13　今回のプログラムについてⅣ

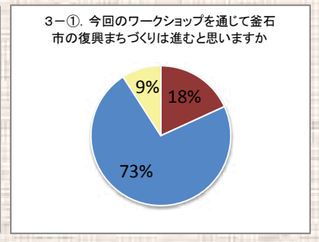


図 14　ワークショップについて①

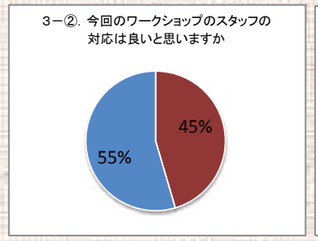


図 15　ワークショップについて②

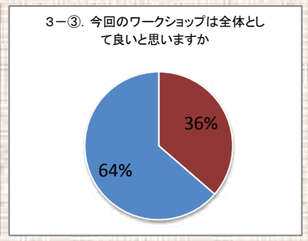


図 16　ワークショップについて③

今回解析した方法は
「都市再生整備計画における課題把握の手法に関する研究：プロモーション・リサーチ手法」
（日本都市計画学会第41 回学術研究論　2006　年　芦野光憲、浅野光行）他に基づく

WS中の議論の分析

第1・2回WSのまとめ

前回行われた第１回ワークショップの成果を、視点別にまとめ直しました。

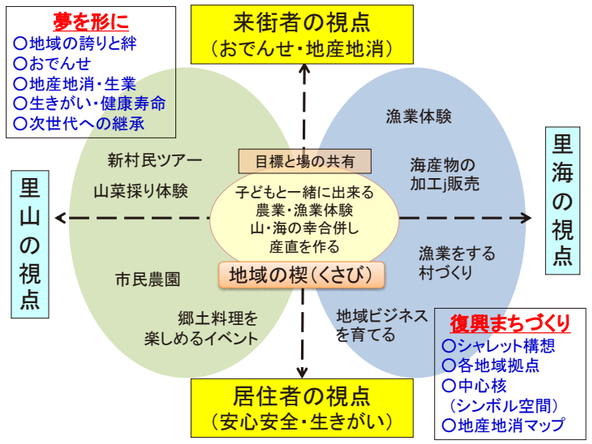


図 17　第１回ワークショップの成果

そして、今回行われた第２回ワークショップの成果も、視点別にまとめ直しました。

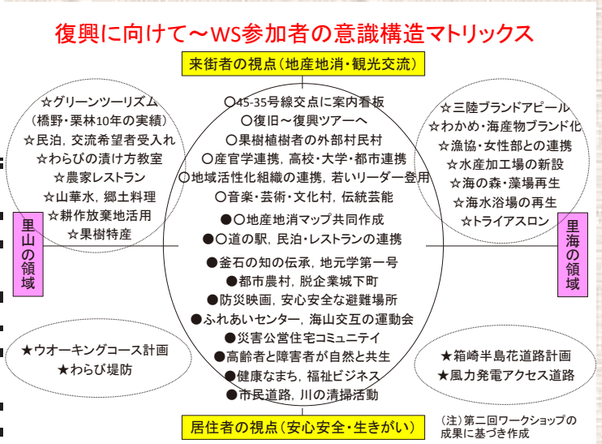


図 18　第2回ワークショップの成果

この二つの成果を分析すると
見えてくるものとは・・・

次回のワークショップにて！

※次の頁では「事例カード」を紹介します！

松下先生の提示された、事例カードの紹介！

■地域の誇り・絆
復興のシンボル
①日立市の桜並木（産業公害克服の歴史）
②飯田市のリンゴ並木（大火経験の歴史）

■おでんせの心
次世代への継承
③御谷の森を残す（（財）鎌倉風致保存会
④知床 100 ㎡運動～知床で夢を買いませんか

■地産地消・生業
地域ビジネスモデル
⑤地産地消マップ（芝浦工大学生プロジェクト）
沖縄・石垣島・環境経済調和型農業モデル
⑥長崎県・小値賀を暮らす大人の旅！

■健康・生きがい
健康寿命延伸
⑦多摩ﾆｭｰﾀｳﾝ「歩いて楽しい健康まちづくり」
都市型菜園実証実験（芝浦工大松下研）
⑧多摩ﾆｭｰﾀｳﾝ「福祉亭」（コミュニテイカフェ）

⑤地産地消マップ（芝浦工大学生プロジェクト）
沖縄・石垣島・環境経済調和型農業モデル

カード⑥：小値賀を暮らす大人の旅！

交流 観光

㈱小値賀観光まちづくり公社（長崎県小値賀町）

○観光街づくり事業
小値賀（おぢか）の歴史や自然、食、 文化、人などの魅力に惹かれて来る「大人の旅人」
○古民家ステイ・古民家レストラン・体験プログラムを核とした観光まちづくり事業

資料：㈱小値賀観光まちづくり公社HP

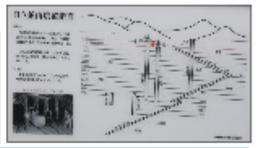
○古民家ステイ
武家屋敷や港を望む漁師町の家。古民家でゆっくりと島を暮らす旅。一棟貸し切りの宿泊滞在施設

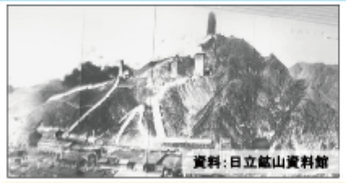
○古民家レストラン
島へ移り住んだ料理長が、多彩な地元の食材と伝統食に学び、小値賀の風土に根ざした創作和食料理を提供

○島旅コンシュルジュ
「アイランドツーリズム」という団体が、お客様だけの「オリジナルの島旅づくり」をお手伝いするシステム

カード①：日立市の桜並木（産業公害克服の歴史）

久原 房之助氏
（くはら ふさのすけ・1869-1965）
○実業家であり、かつ政治家，
○衆議院議員当選5回。
○日立製作所創立の基盤となった久原鉱業所（日立鉱山）の総帥。
「鉱山王」の異名を取る。





資料：日立鉱山資料館

産業公害克服の歴史：苦心惨憺精神
○煙突168mの建設（煙害の拡散）
○大島桜を植樹，はげ山の再生

街づくりに見るストーリー性
○大通りに二列の桜並木を整備
○桜をテーマとするお祭り

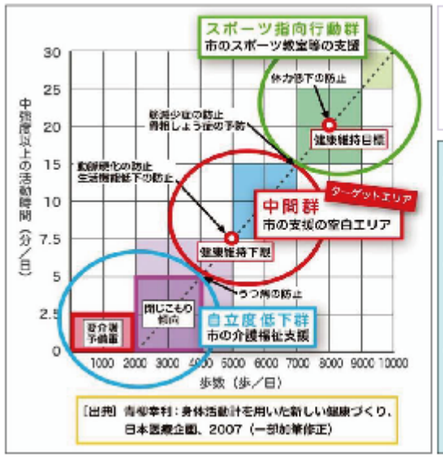
カード③：「御谷の森を残そう」（財）鎌倉風致保存会

○作家「大佛次郎」提唱
○日本人の「将来の品 位と美意識のため」
○1964年に活動組織発足
○1966年御谷の森取得

資料提供：(社)日本ナショナルトラスト協会

日本版ナショナルトラスト発祥の地「御谷の森」
○鶴岡八幡宮の裏山『御谷』 の宅地造成計画への反対運動。集めた寄付金を原資に、御谷の山林を買取る運動。
○『古 都保存法』制定の原動力となる。

カード⑦-1：多摩ニュータウン歩いて楽しい街づくり



［出典］青柳幸利：身体活動計を用いた新しい健康づくり，日本医療企画，2007（一部加筆修正）

運動医科学の視点
○スポーツ志向行動群
歩数7,000歩以上
病気・生活機能低下ともになし
○中間群
歩数5000-7000歩
病気はあるが，生活機能低下はなし
○自立度低下群
歩数5000歩以下
生活機能が低下，要介護・要支援の領域に近づく

カード⑦-2：「都市型菜園」実証実験

落合4丁目団地（多摩市）

○9月20日　緑化委員会と研究協力協定締結
○10月8日　段ボール堆肥づくり講習会開催
○10月20日　ブルーベリー苗木搬入
○10月22日　ブルーベリー栽培講習会開催
○10月29日　共同菜園講習会開催
（註）国土開発技術センター助成事業採択

ブルーベリー栽培講習会（小林講師）

○高齢者の意識変化・行動変容効果を期待

カード②：飯田市のリンゴ並木（大火経験の歴史）

街のシンボル「リンゴ並木」

出典：リンゴ並木HP

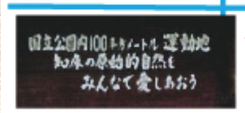
○飯田のりんご並木の誕生背景
かつての「飯田の大火」の復興過程で、当時の市立飯田東中学校の生徒達の提案により生まれ、街のシンボルとして今日まで、市民の手で守られ育てられてきた。
○交差配置の防火帯道路の整備
万一の大火災時には、火災発生元を中心に市街地全体の1/4の焼失でくい止め、それ以上の延焼を防ぐ役割。

カード④：知床100㎡運動 知床で夢を買いませんか

○1964国立公園指定
○1970年代の乱開発
○1977斜里町が運動開始
（一口5千円@5万人）
○土地940haを買戻し

自然復元が進むナショナルトラスト対象地

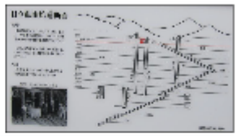
資料提供：(社)日本ナショナルトラスト協会

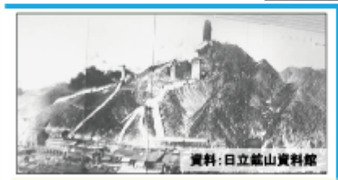


運動参加者の交流プログラム
夏：小・中・高校生を対象とする「知床自然教室」
秋：森の案内と植樹を行う「しれとこ森の集い」
初冬：「森づくりワークキャンプ」

カード①：日立市の桜並木（産業公害克服の歴史）

久原 房之助氏
（くはら ふさのすけ・1869-1965）
○実業家であり、かつ政治家，
○衆議院議員当選5回。
○日立製作所創立の基盤となった久原鉱業所（日立鉱山）の総帥。
「鉱山王」の異名を取る。





資料：日立鉱山資料館

産業公害克服の歴史：苦心惨憺精神
○煙突168mの建設（煙害の拡散）
○大島桜を植樹，はげ山の再生

街づくりに見るストーリー性
○大通りに二列の桜並木を整備
○桜をテーマとするお祭り